



ぴよんぴよん
うさぎとごさく2

3月16日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

3月16日のおはなし「ぴょんぴょんうさぎと ごさく2」

むかあし。

ぴょんぴょんうさぎという、それはまあ、たいそうたちの悪いうさぎがおったそう。

ぴょんぴょんうさぎのあるったあとは、
ぺんぺん草もはえちよらん
ぽんぽん火薬がはじけては
ぷんぷん死臭がかおるだけ。

という、およそわらべ唄とも思えないような凄惨な唄にうたわれているとおりに、こすっからく、ひねこびていて、相手の不幸が最大の好物という、それはそれは腹黒いうさぎじゃった。ところがこのうさぎ、見た目は実にかわいらしく、たいていの人はころりとだまされてしまう。

純白の毛並みは一点の濁りもなく、真っ赤な目はうるうるといまにも泣き出しそう。とた、とた、という、頼りなげな足運びはまるで生まれて間もない子うさぎを思わせ、ふんわりまるくてふるふるふるえる様子は抱きしめてやりたくなるような愛らしさ。

まあ、可愛い！ 思わずかけよらずにはいられない。そうやって落とし穴の肥えツボにはまった子どもは数知れない。あらうさぎさん、逃げないのね？ と言って抱きしめようとしてスタンガンの電気ショックをあびせられたおなごも数知れない。こらこらこんなとごいるどしどどの邪魔さんんべ、と声をかけた男は大事な作物がすべて根元でかじりとられていることを見つけ出す。そんな調子だ。

ここに吾作という一人の親父がおって、ぴょんぴょんうさぎと戦っておった。吾作は十五の歳でぴょんぴょんうさぎに騙され、大切な家族と土地のすべてを失って以来、ぴょんぴょんうさぎを退治することだけに命をかけ、もうかれこれ四十年になろうとしておる。筋金入りのぴょんぴょんうさぎバスターじゃ。おかげでいま吾作が住んでおる村ではぴょんぴょんうさぎの被害に合う者はひとりもいなくなった。

ただ、そうなると都合の悪いことも出てきた。

以前は、ぴょんぴょんうさぎにひどい目に合わされた者が吾作を応援していたが、そういう人がみんな年を取って、死んでしまったりボケてしまったりして、もうだれもぴょんぴょんうさぎの悪行三昧を覚えておる者がおらんようになった。すると、はた目に吾作は可愛いウサギをいじめる凶悪な男のように見えてしまう。そんなわけでいまや吾作はすっかり村人の嫌われ者になってしまった。

長年のライバル同士、ぴょんぴょんうさぎと吾作は互いにわかりあえるところもあって、たまに山の中の、だれもおらん空き地の切り株に腰掛けて話し合うこともある。

まったく、はあ、ひどい話じゃ。わっしはおまえをいじめる冷血漢のように思われておる。吾作は弁当を広げながらため息をつく。どうだ奈良漬けでも食うか。

あんがとよ。渋いだみ声でぴょんぴょんうさぎが答える。でもよ、吾作どんがおいらをいじめてるってのは事実じゃねえか。

事実なもんか。おまえみたいな極悪非道な魔物を排除しているだけだ。

ところが誰もそうは思わねえって寸法だ。ぴょんぴょんうさぎは耳障りな笑い声でけっけっけと笑う。

そうだ。村の奴らはみんなおまえをめんこい、愛くるしいうさちゃんだとおもっちゃう。

しかたないわよ。急に鈴を転がすような可愛い声を出してぴょんぴょんうさぎが言う。だってあたい、なんにも知らない子うさぎなんだもの。

半世紀も生きとる化けうさぎが何をぬかすかあああ！ 吾作は思わず声を張り上げる。おまえがそうやって可愛い子ブリッコするのをまぬけな村の奴らあみんな信じちよる。そんなものはおらんのに、どこかにめんこいうさぎがおって、わしにいじめられとると思っちよる。共同幻想って奴じゃ。

共同幻想か……。ぴよんぴよんうさぎは珍しく真面目な声を出して繰り返した。

長い間を開けてぴよんぴよんうさぎが言う。かわいそうになあ。

ああ？

吾作どん、かわいそう過ぎる。おいら何だか泣けてきちゃったよ。

何を言うかこのばかたれうさぎが。

なあ吾作どんよ。

なんだ。

このままじゃ吾作どんが気の毒過ぎると思うんだ。

おうよ、このままじゃわしは浮かばれんよ。

おれたち長い付き合いだしよ、ひとつこうしてみてもはどうだろう。

そしてぴよんぴよんうさぎは、自分が村の中で悪さをして大暴れをするので、それを吾作どんが懲らしめて、村のみんなに認められるというのはどうだろうと。

何だか聞いたことのある話だな。

そうさ。泣いた赤鬼メソッドだもの。

そったら昔話みたいにうまくいくもんか。

うまくいくんだよ。それこそ共同幻想の力さ。

そうかな。

そうさ。

うまくいくかな。

うまくいくさ。おれたち長い付き合いじゃないか。

こうしてぴよんぴよんうさぎの言葉にのったことを、その後吾作どんは死ぬほど後悔することになるのだが、それはまた後の話じゃ。その後、廃墟に成り果てた村を後にして、吾作どんはぴよんぴよんうさぎをしとめる旅に出たということじゃ。

とっぴらぼんのしゃん。

(「共同幻想」 ordered by tom-leo-zero-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

ぴょんぴょんうさぎと吾作2

<http://p.booklog.jp/book/46336>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46336>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46336>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.